

応募作品



タイトル

林鉄のあるまち

ペンネーム

にゃんごろー

場所

宍粟市波賀町 フォレストステーション波賀

コメント

ときおり雨が降る中、一瞬の晴れ間に
気持ち良さそうに走る森林鉄道の勇
姿。おじいちゃんおばあちゃんが若い
頃には当たり前だった風景が、今の子
どもたちに新しい風景として ^{よみがえ}甦
りました

応募作品



タイトル

せせらぎ公園とHONDAスポーツカー

ペンネーム

けいしほ

場所

宍粟市山崎町今宿 せせらぎ公園

コメント

せせらぎ公園の広場に、近畿各地からHONDAスポーツカー好きが集まりました。揖保川や宍粟の山々に囲まれたこの場所を絶賛して下さいました。

応募作品



タイトル

みかた
御形神社春祭り

ペンネーム

tond_77.15

場所

宍粟市一宮町 御形神社

コメント

今年は、コロナ禍で中止されていた
おたび御旅行列が執り行われました。あで艶やかな行列に魅了されました。ただ、人口の減少によりみこし神輿を担ぐ人が足りなくなっています。子供相撲も難しい。後世に良き伝統を残していけたらいいなと思います。

応募作品



タイトル

みかた
御形神社春祭りの子供御輿

ペンネーム

tond_77.15

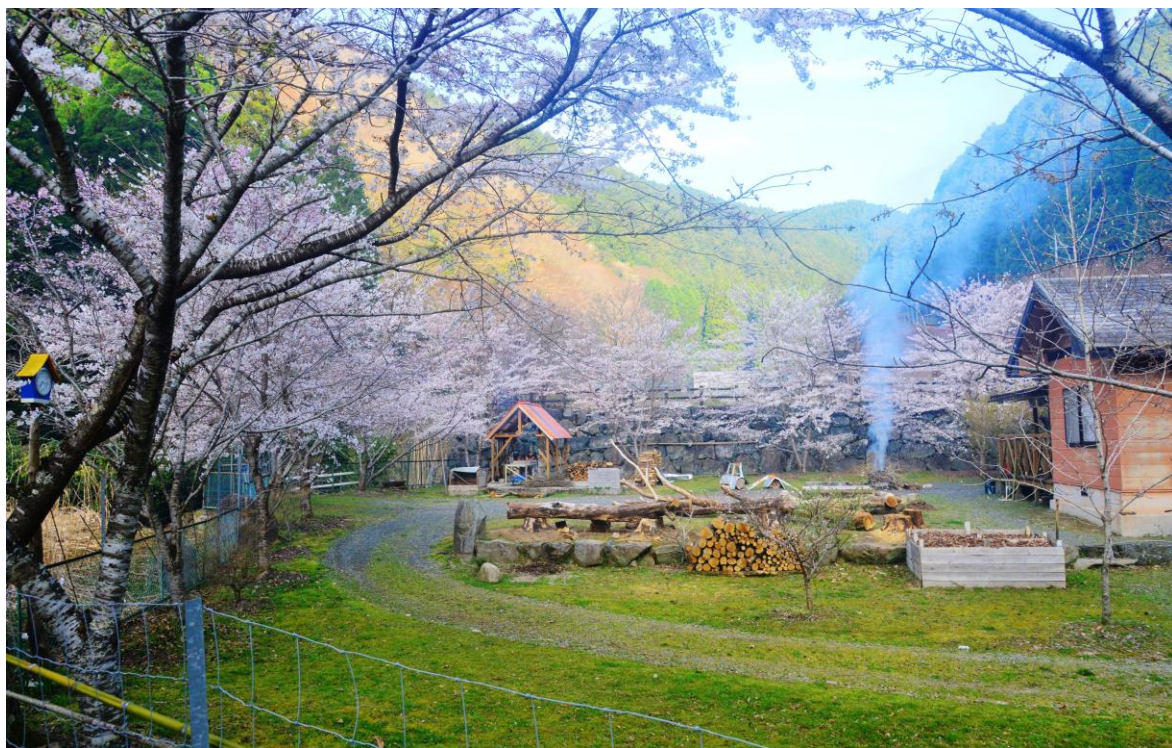
場所

宍粟市一宮町 御形神社

コメント

今年は、コロナ禍で中止されていた^{おたび}御旅行行列が執り行われました。子ども達が元気に^{みこし}御輿をかつぐ姿をほほえましく見ました。しかし私の子ども達の時の15年ほど前までは、繁盛、三方、下三方、各地域で1つずつ御輿を出したのですが、今は3地域で1つの御輿を担いでいました。御輿を担ぐ子ども達の元気なかけ声がいつまでも聞けることを願います。

応募作品



タイトル

山里の春

ペンネーム

阿野 俊文

場所

穴栗市一宮町深河谷 周辺

コメント

深河谷でも標高が 400m と高い上部は、一晩に 80cm の積雪を見ることもある。冬が厳しいだけに春の訪れが待ち遠しい。ここに移り住んで 10 年になるが、当初小指ほどの太さだった苗も早、屋根を越えるくらいに大きくなった。^{やまふところ}山 懐に抱かれた桜の園でのんびり暮らせるのは、山里が多い穴栗ならではの...

応募作品



タイトル

山の湖

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市波賀町引原 周辺

コメント

高地にある音水湖の春は遅れてやって来ます。桜の季節とはいえ山の湖なればこそその冷涼なたたずまいを朝のさざなみ公園で撮りました。訪れる人も稀ですが、周辺は春夏秋冬を通じて美しく穏やかです。芝に弁当を広げて是非のんびり過ごしてください。

応募作品



タイトル

ダムと二重の虹

ペンネーム

阿野 俊文

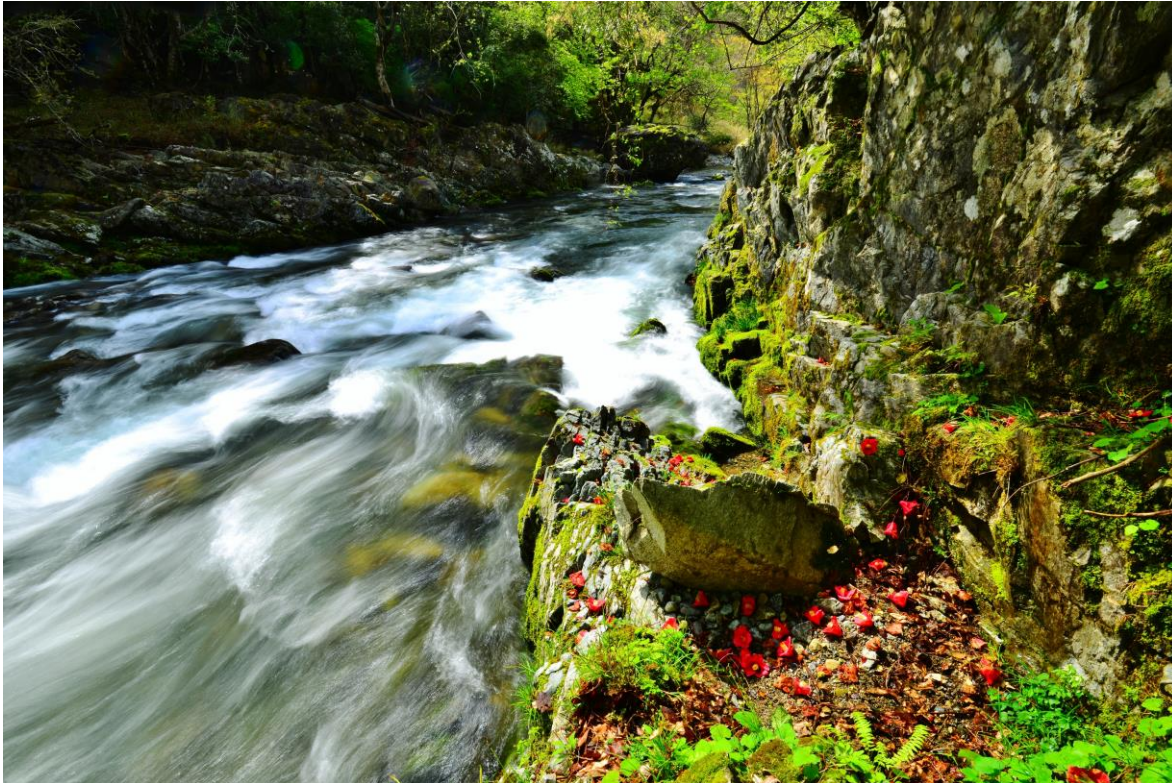
場所

宍粟市波賀町引原 周辺

コメント

「放流口をやや絞っている」と居合わせたダム職員さんの話。^{すいせい}水勢は空気層を突き破りかねて飛散している。降り注ぐ^{すいまく}水幕に現れた二重の虹をレンズを^{かば}庇いながら撮った

応募作品



タイトル

かはん
河畔を彩る

ペンネーム

阿野 俊文

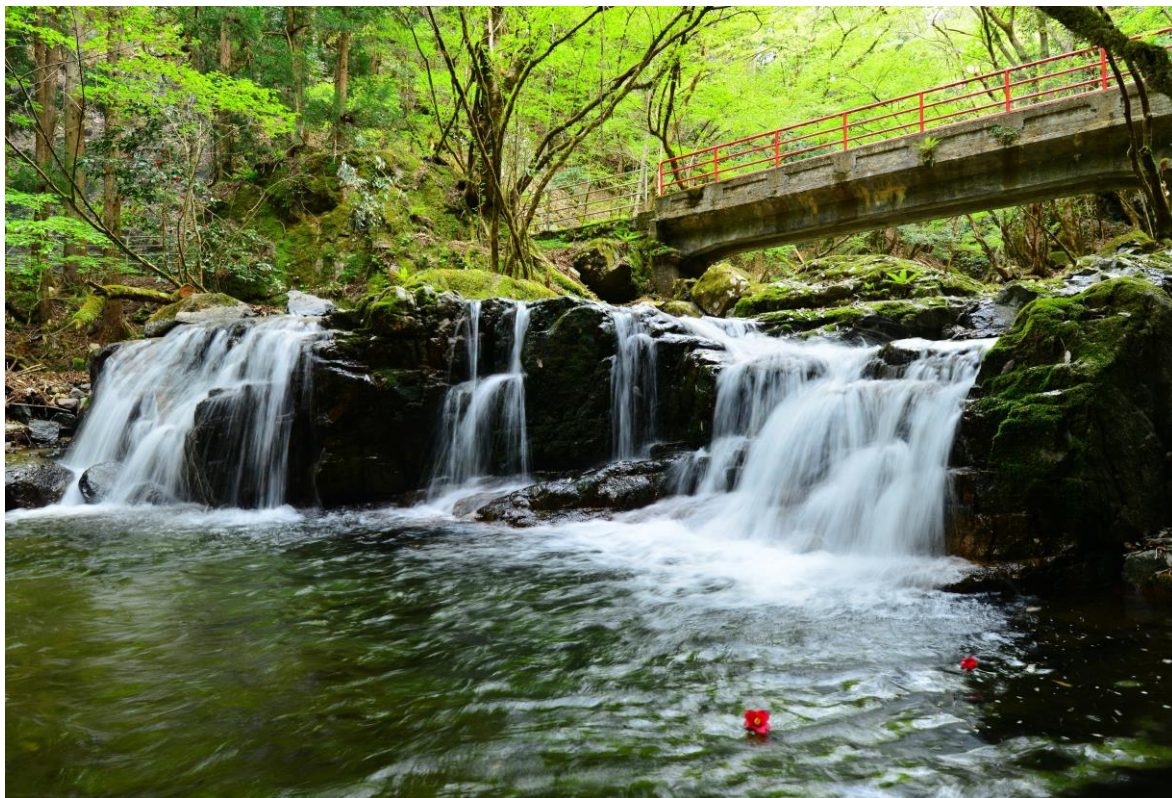
場所

宍粟市波賀町原 周辺

コメント

引原川右岸のサイクリングロードを春半ばに訪れた。小道沿いにたくさんの椿が見られる。ポトリと落ちる様が忌み嫌われがちだが、取りようによっては、形が崩れず、花が二度楽しめるとも言える。岩棚や砂地のそこここ散り置かれた花房はそれぞれに風情があって目を楽しませてくれる。

応募作品



タイトル

小滝と赤い花

ペンネーム

阿野 俊文

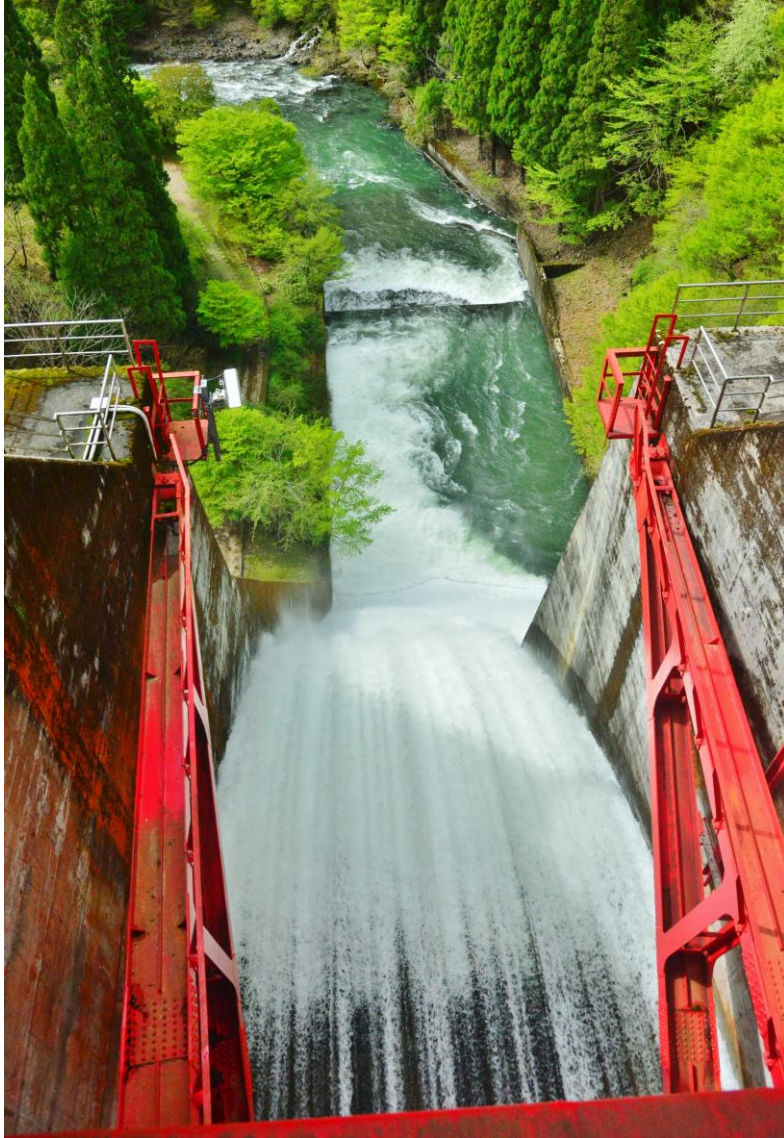
場所

宍粟市波賀町日ノ原 周辺

コメント

音水と赤西、両溪谷の間に忘れられたような中音水溪谷がある。引原川に流れ込むその河口に小滝とサイクルロードの赤い橋が見られる。その直ぐ上流にも美しい釜と斜^{しゃ}瀑^{ばく}が続くのだけれど、サイクルロード同様に荒れてしま^{かえり}って今は顧みられることもない。残念なことだ。

応募作品



タイトル

音水の赤いゲート

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市波賀町引原 周辺

コメント

管理棟脇に「放流中」の電光掲示板。それも観光放流ではなくゲートからの大放流！これはと周辺を走り回って撮った。最後にゲートの金網上、10cmほどの隙間に気が付いて、両手バンザイでカメラを掲げて、大体の感じで何枚か撮った内の一枚。落ちていく射流に足がすくむようだ。

応募作品



タイトル

雲海に注ぐ^{こうぼう}光芒

ペンネーム

阿野 俊文

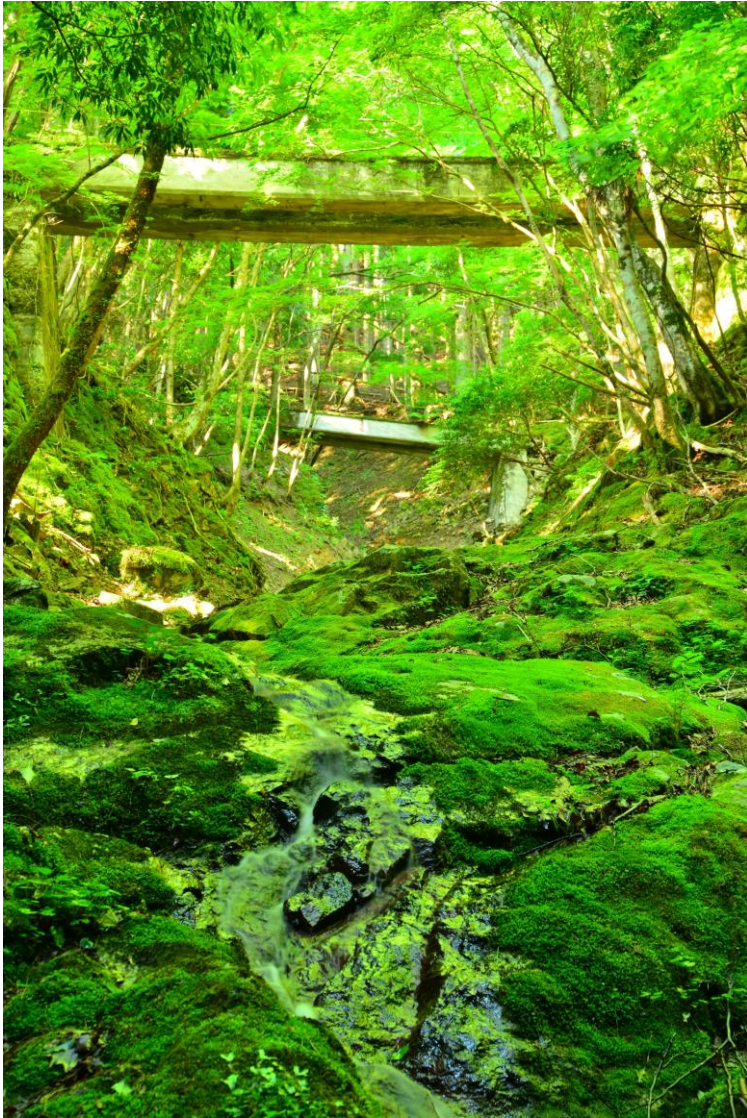
場所

宍粟市一宮町河原田 周辺

コメント

^{くもま}雲間からの^{こうぼう}光芒が雲海に降り注ぐ、ちょっと珍しい光景に出会った。^{たかのとうげ}高野 峠 から少し下った林道の終点の見晴らし台から撮ったここは毎日のようにさまざまな景色を見せてくれる。雲海より珍しい^{くもがわ}雲河であったり^{あかねぐも}茜雲であったり一宮町の絶景スポットと言える。

応募作品



タイトル

二股の軌道橋^{きどうきょう}

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市波賀町中音水溪谷 周辺

コメント

高度を稼ぐために右から左へ U ターンするように敷設^{ふせつ}された二段のコンクリート橋。今も現役のように見えるフォレストステーション波賀に林鉄が再現されているけれど、こんな橋を渡って中音水溪谷を回っていけばどんなにかワクワクするだろうと思う。

応募作品



タイトル

ささゆり三姉妹

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市一宮町深河谷 周辺

コメント

深河谷でも市花のササユリは時々見かける。透き通るような薄紅色の花は清楚で美しい。親類に姉二人は普通なのに末っ子だけずいぶん背が高い三姉妹があるが、このユリをみてつい思い出してしまった。

応募作品



タイトル

ふるさと鳥瞰^{ちょうかん}

ペンネーム

阿野 俊文

場所

穴粟市一宮町安積 周辺

コメント

いわたにやまひがしおね
岩谷山東尾根に登った。安積方面の水田が午後の光に驚くほど美しかった。光の具合が変わらない内にと山道を駆け下りて家に戻って望遠レンズをつかんで取って返してきた。山影を移す水田と揖保川の流れを何枚も撮った。たまたま脇から飛び出した^{とんび}鳶が、望遠レンズの圧縮効果もあって大きく写り込んだので表題とした。

応募作品



タイトル

エーンヤ

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市一宮町須行名 周辺

コメント

揺れる伊達綱、荒ぶる乗り子、必死な担ぎ手、脇で観る人、撮る人、渾然一体となって渦巻くようだ。離れて望遠で狙っている自分まで力が入ってくる。播磨国一宮の名に恥じない勇壮な祭りだ。

応募作品



タイトル

波賀のmatterホルン

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市波賀町野尻 大殿橋より

コメント

「オオコウザン」というのが正式名らしいが、少なからず無理があるように思う。野尻^{おおとのぼし}の大殿橋から眺めるその山は、正に^{かぶと}兜でありオオカブト山というのが当たっているように思えてならないからである。それはともかく、国道からチラリ脇見するその姿は、自分的に波賀のmatterホルンと呼んでいるくらい^{しゅうれい}秀麗である。

応募作品



タイトル

紅葉の大橋

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市波賀町引原 周辺

コメント

音水湖にはこの新三久安^{しんさんきゅうあん}とカラウコの雄大な二つの大橋が架かっている。いずれも絶好の被写体ではある。今回は透き通るような湖面を境に優美なトラス橋と紅葉をシンメトリーの構図で狙った。ワンポイントの長距離路線バスがさざ波が立たない内に来てくれとジリジリしながら待って撮った。

応募作品



タイトル

穴栗市ロードレース

ペンネーム

阿野 俊文

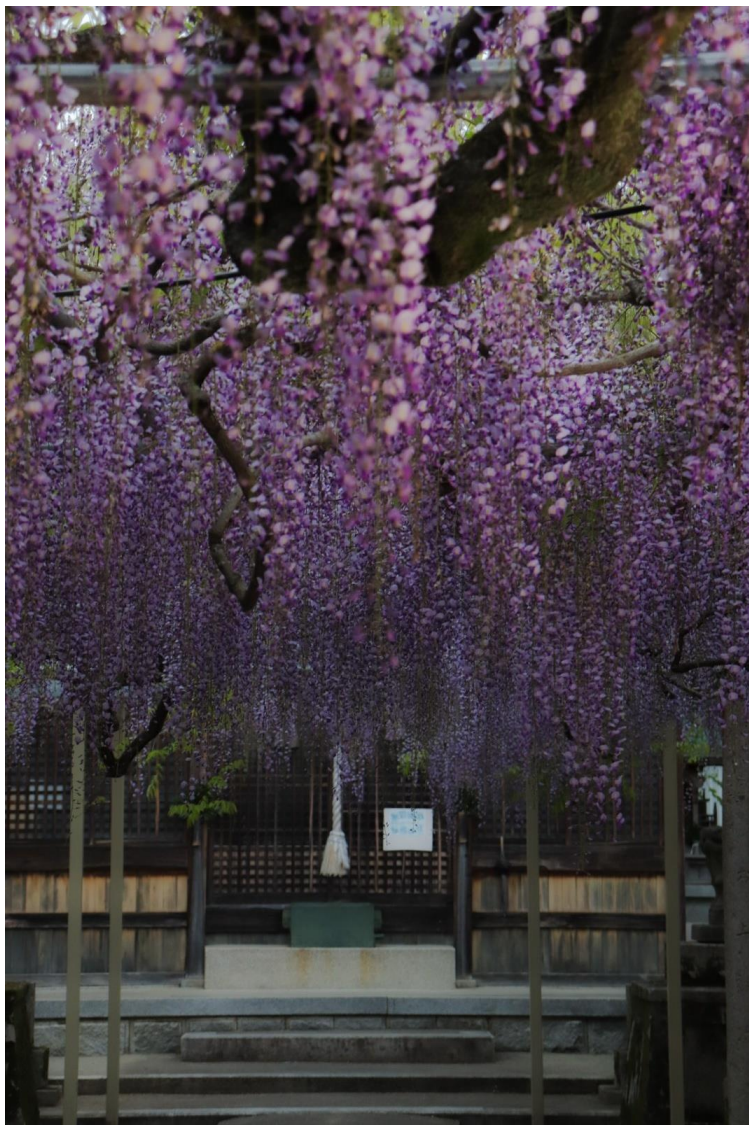
場所

穴栗市一宮町三方町 周辺

コメント

早くから掲げられていた予告横断幕に^{あお}煽られて来てみた。全国で行われている何万人とも知れない競技者の群れを想像していたので少し拍子抜けした。でも、撮った写真を見れば真剣な親子、笑顔で走る親子、お父さんを引っ張っていく子、乗り出して写真を撮る応援団、それぞれに表情がうかがえる、ここならではの画が撮れた。

応募作品



タイトル

ださい
大歳神社千年藤ライトアップ

ペンネーム

tond_77.15

場所

宍粟市山崎町上寺 大歳神社

コメント

千年以上この地に根を張っている千年藤。今年もたくさんの花をつけました。藤まつりが開催されたたくさんの人が見にこられました。静かな町がにぎやかになるひと時です。千年藤にはいつまでも元気でいてほしいです。

応募作品



タイトル

新緑のもみじ山

ペンネーム

tond_77.15

場所

宍粟市山崎町元山崎

コメント

秋の紅葉狩りにはたくさんの方が訪れますが、新緑の頃もとてもきれいです。春の明るい光に黄緑色のもみじの葉が透けてキラキラしています。

応募作品



タイトル

HONDAスポーツの集まり

ペンネーム

けいしほ

場所

宍粟市山崎町今宿　せせらぎ公園

コメント

山崎町で揖保川の景観が一望できる
落ち着いた場所です。